

1

起きたら牢屋の中だった件

※全編を通して、基本的な位置関係は「正面からやや近め～中くらい」でお願いします。

両耳から25cm程度離れている位置です。

(「」で括っている部分は囁きです。

右か左、または両耳(正面)と記載します)

□遠くの足音SE(ブーツでコンコン踏む音が牢屋で反響している)

□牢屋のカギを開けるSE

□ドアを開けるSE

□足音が近づいてくるSE(ブーツでコンコン踏む音が牢屋で反響している)

おい、さっさと起きろ。

聞こえてるのか？

ふああああ、やっと起きたか。

ふん、何を呑気にキョトンとしている。

ああ、ここがどこか分らないのか。

(少し間)

なら教えてやる。

ここは、何らかの未練を抱えながら死んだ者達が囚われる牢獄だ。

そして、お前は未練という罪を抱えた罪人だ。

(○ざいにん読みでお願いします)

ふん、お前も何かしらの思いを馳せながら、無様に死んでいったようだな。

ああ、惨めなことだ。

もうお前は現実世界に戻れない...ついさっき死んだからな...くすくすくすくす。

(少し間)

ま、そんなに焦っても仕方ないぞ。

もう死んでるんだからな、何を焦る必要がある？

ほら、少しは肩の力を抜いたらどうだ？

ふん、そんなに警戒しなくてもいいぞ。

少なくとも、私はお前の敵ではない。

ま、味方でもないがな。

(少し間)

はあ、まだ困惑しているようだな。

仕方ない、この牢獄の仕組みも教えてやろう。

ここでは、生前に叶わなかった未練を形にすることが出来る。

ふん、意味が分かったか？

そうだ、ここではお前がやり残した未練を叶えてやる事が出来る。

(少し間)

おい、喜ぶのはまだ早いぞ。

もちろん代償もある。

条件はこうだ。

3日目終了し、4目を迎えても欲望に流され続けた場合、お前は代償として魂を完全に吸収され、自我を失う。

死後のお前は、まだ魂を保っているおかげで、実体として存在できているが、それを失くせば存在ごと消える。

そして、ネクロマンサーである私なら、お前の魂を吸収し、傀儡にすることができる。

空っぽの体になったお前は私の人形になる。

くすくす...どうだ？怖くなってきただろ。

って、何をニヤニヤしている？

また死ぬんだぞ...怖くないのか？

(少し間)

っぷ...くすくすくすくす、なるほどな、マゾ性癖を満たせないまま死んでいったのか。

ああ、惨めな死に様だな。

お前みたいな人間とは何度も遭遇してきた。

自分の性癖を満たせなかったという、下らない未練を抱えながら死んでいく。

本当に男は単純だな。

それで、私はどうすればいいんだ？

(少し間)

ああ、やけに慣れてる感じがするだろ？

当然だ。

ここで何人もの男を相手にしてきたからな。

だが、勘違いするな。

もちろん、私自身にもメリットがあるからだ。

お前の欲望を満たし、3日間かけ、徐々に魂を吸収していく。

そのまま欲望に打ち勝つことが出来なければ、私の傀儡になる。

ま、最後まで勝ち残ったやつは1人もいないがな。

せいぜい安心して、もう1度死ぬ覚悟をしておけ...くすくす。

(少し間)

はあ、にしても、今の状況がまだ飲み込み切れていないようだな。

ま、仕方ない。

起きた途端、いきなり牢屋の中にいたら誰でも動揺する。

(少し間)

よし、そろそろ時間だ。

とりあえず今日はここまでにしておく。

明日になるまでに心の準備をしておけ。

□足音が離れていくSE

(ブーツでコンコン踏む音が牢屋で反響している)